

三種混合(DPT)、二種混合(DT)

三種混合（DPT）は、ジフテリア、百日咳^{ぜき}、破傷風に対する予防接種です。いずれも戦前は年間数千人単位で死者が出る病気でしたが、1968年から三種混合の定期予防接種が開始され患者が激減しました。現在の日本では、ジフテリアと破傷風^{りき}に罹患する危険性はとても小さくなっています。一方、百日咳は感染力が非常に強く、近年では青年や成人での発症が増加しているため、長引くせきが見られるときには老若を問わず百日咳を疑う必要があります。

三種混合ワクチンには、不活性化した百日咳菌の菌体成分のほか、ジフテリア菌、破傷風菌の産出する毒素を無毒化したトキソイドという物質と、免疫効果を高めるためのアルミニウム塩が含まれています。このアルミニウム塩のために、接種後しばらくは局所の発赤や腫脹^{しゅちよう}、しこりが残ることがあります。自然に消えてしまうので、通常は湿布を張る程度の処置で十分です。

三種混合は1期初回といって、生後3か月から3回の接種を行います。その後、12～18か月後に追加接種を1回行います。この追加接種をしないと基礎免疫がつかないのですが、つい忘れてしまいがちです。接種時期を過ぎてしまっても追加接種は可能ですので、かかりつけ医に相談してください。また、三種混合の免疫効果は10年ほどで弱くなってくるので、ジフテリアと破傷風の免疫を強化するために二種混合（DT）ワクチンを接種します。接種時期は11歳以上13歳未満です。時期を逃さず接種しましょう。

（このコラムは市立病院 病院総務課 電話（260）0111が担当しています。）